

ユニセフミャンマー指定募金

みなさんの気持ちが世界の子どもたちの笑顔につながります！ に、ご協力ください！



とやま生協は、ミャンマーを支援する関西・中四国エリアの生協と連携して、ユニセフミャンマー指定募金「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プロジェクト」に参加しています。



ミャンマーの子どもたち

©UNICEF Myanmar

ユニセフ(国連児童基金)とは

ユニセフは、世界の子どもたちの命と権利を守る主要な機関として、約190の国と地域で活動を行っています。今回お預かりする募金はミャンマーの栄養支援プログラムに活用される「指定募金」となります。

募金方法 ※募集期間 7/8(月)～8/2(金)

【3～6桁番号】注文欄					
注文番号					注文数
3	7	5	1	6	1

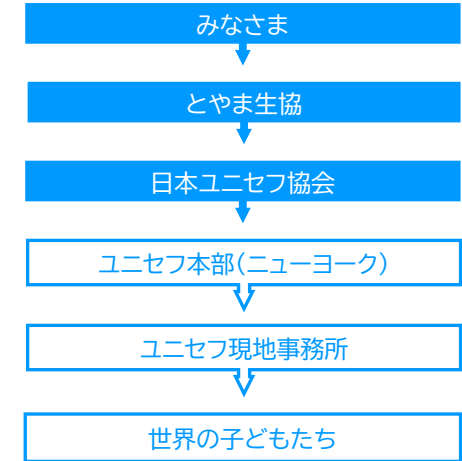
※eフレンドでも注文できます。

注文番号
375161

注文数「1」を記入した場合  円の募金に！

※お預かりした募金は、寄付金控除の対象にはなりません。
※募集期間後も、ユニセフミャンマー指定募金を受け付けています。

ユニセフ募金の流れ




ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プロジェクトとは


ミャンマーでは、慢性的な栄養不良に苦しむ子どもの割合が高く、母親である女性たちの乳幼児に対する食習慣についても知識が十分に行き届いていません。


また、2021年2月の政治的危機以降は、経済が混乱し、食料価格は上がり、子どもたちの栄養状態は悪化していると考えられます。ミャンマーの栄養状況が良くない地域にいる子どもたちのために、地域の保健ボランティア等への栄養指導の研修や微量栄養素の配布などを実施しています。

※裏面に具体的な支援活動例を紹介しています。


募金でできる支援例

 **2円** 子どもたちの免疫力を高め、感染症にかかりにくくする **ビタミンA カプセル1錠**

 **50円** 重度の栄養不良からの回復に役立つ **栄養治療食 1袋**

 **217円** 10リットルの水を貯水・運搬できる折り畳み式の **貯水容器1つ**



 **2,096円** 熱に弱いワクチンを一定の温度に保って運べる **ワクチン用保冷庫1個**



お問い合わせ先: とやま生協 コールセンター Tel.0120-555-192(月～金 9時～18時)

※2023年1月時点の価格です ※輸送や配布のための費用は含まれていません

ミャンマー指定募金による支援活動例

※2022年度(8年目)の募金は2023年7月~2024年6月に現地で活用されています。

<具体的な活動例>

1. 質の高い栄養指導を行う医療従事者・保健ボランティアの育成
2. 微量栄養素を乳幼児に配布
3. 栄養不良児への栄養治療食の提供
4. 栄養改善に向けた意識・行動変容のための広報活動



<2015~2021年度の募金(第1~7期)の活動・成果例(2016年7月~2023年6月)>

- ・7,421人の医療従事者や保健ボランティア等へ“乳幼児の栄養改善”についての研修を実施
- ・約58,000人の子どもに微量栄養素パウダーを提供
- ・栄養強化治療食で栄養不良に苦しむ子ども2,240人を治療
- ・乳幼児の栄養改善カウンセリングを約66,000人のお母さんへ

※2021年2月以降の政治的混乱後もユニセフは活動を継続していますが、政治的に中立の立場で、国内外のNGOや地域の保健団体等とのパートナーシップを通じて支援活動を行っています。

ミャンマーの女性と子どものストーリー



栄養改善カウンセリングによって命をつなぐ子どもたち

ミャンマーの農村部では、栄養不良が社会問題となっており、国民に栄養改善の知識や実践が不足しています。また、新型コロナウイルスや現在の政治危機の影響による食料価格の高騰、質の高い医療サービスを受けられないことが、事態をより悪くしています。

ユニセフ・ミャンマー事務所では、2021年2月の政治危機以降も、保健ボランティアの代表に対して乳幼児の栄養改善についての実践的な研修を提供し、研修を受けた保健ボランティアたちが妊娠中・育児中の女性に対してカウンセリングを行っています。



重度の急性栄養不良の子どもに与えられる
栄養治療食「ブランピーナッツ」

エーヤワディ管区のカーニングー村に住んでいるダウさんは、子どもが食べ物を欲しがって泣いているときだけ母乳を与えるようにしていました。子どもたちはたびたび体調を崩すようになり、生活環境が子どもの健康に影響があるのではないかと考えるようになりました。

ユニセフとパートナー団体が実施する栄養改善カウンセリングを受けたところ、彼女の4番目の子どもが重度の急性栄養不良と判断されてしまいます。すぐに病院に搬送され、栄養治療を受け、体力を回復することができました。自身の知識不足が子どもの栄養状態を悪化させてしまったと気付いたダウさんは、今では積極的に栄養改善カウンセリングに参加し、栄養に関する知識を提供してくれる機会に感謝しています。



子どもに栄養治療食を与えるダウさん。(エーヤワディ管区)